

イノベーション創出
に資する施設整備

学生の修学支援
に資する施設整備

グローバル化に
対応した施設整備

そ の 他

イノベーション創出に資するオープンラボ整備



建物外観①

基本情報

大学名：大阪大学
建物名：産研第1研究棟
工期：平成20年8月～平成21年8月
構造・階数：RC・地上5階
延床面積：10,955㎡
事業費（設計費含む）：1,209,146千円



建物外観②

整備の方向性

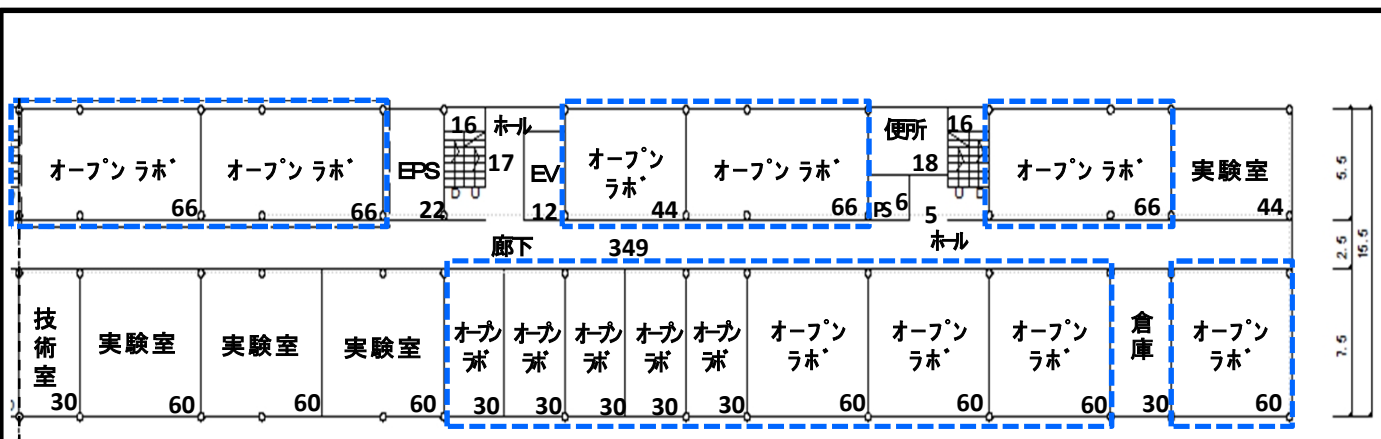
○オープンラボの整備

- ・産業科学研究所の産研第1研究棟東側6,575㎡の耐震改修事業において、機能的に類似した室や分散する諸室を集約化・再配分することで、オープンラボを整備した。（1階：計456㎡，2階：計638㎡，合計：1,094㎡）
- ・狭小な実験室をオープンラボに用途変更するだけでなく、間仕切り壁を撤去し、フレキシブルな利用ができる大空間のオープンラボを確保した。

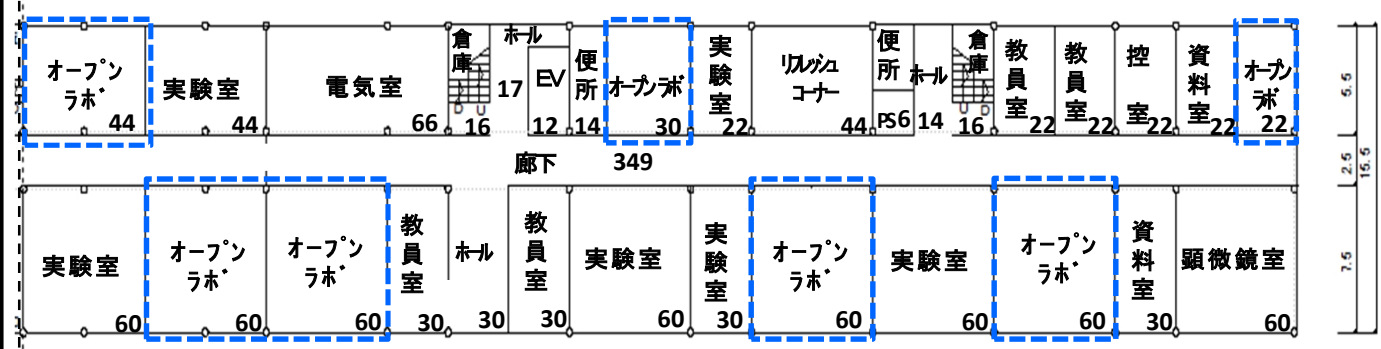
計画・設計上のポイント

○フレキシブルなオープンラボの整備

- ・様々な施設利用形態の変更に対応できる空間とするため、不要な間仕切り壁を撤去し、大空間のオープンラボとなるよう配慮した。
- ・実験室には天井を設けず、空調機等設備機器のメンテナンスや更新等がしやすいように配慮した。
- ・オープンラボを設置した1階・2階には、リフレッシュルームを設け、利用者同士の交流が促されるよう配慮した。



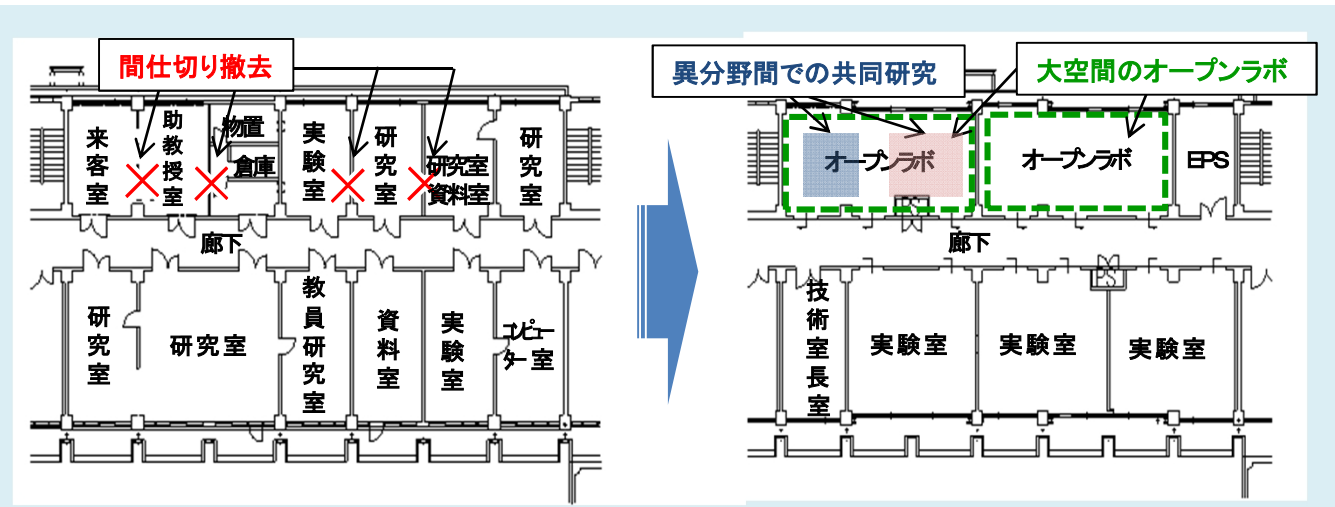
<改修後 2階平面図>



<改修後 1階平面図>

【産研第1研究棟 東側部分】

平成21年度の耐震改修事業



<改修前 詳細図>

<改修前 詳細図>

Before



改修前

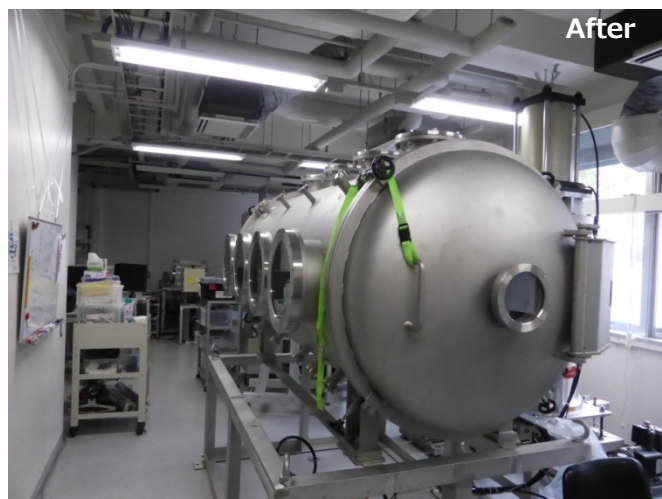
これまでの実験室は、柱スパン毎に間仕切られた狭隘な実験室であったため、大型実験装置の設置や自由な什器レイアウトができなかった。

After

異分野での共同研究とフレキシブルな施設利用

大空間のオープンラボが整備できたことにより、電離気体工学分野と核融合分野の異分野の研究者が同じ空間を共有し、イノベーションの創出を目指した施設利用が可能となった。

また、空間にゆとりができたことにより、大型実験装置の設置や自由な機器レイアウトができるようになり、フレキシブルな利用が可能となった。



リフレッシュルームを整備

研究者の異分野交流を促進させるため、オープンラボを設置する1階と2階に、新たにリフレッシュルームを設置した。

施設整備の効果

- ・ ニーズに合致した大空間のオープンラボが整備できたことにより、他部局の4研究室がオープンラボに入居し、異分野間での共同研究や真空装置等の大型実験機器を設置することが可能となり、最先端の研究が行われるようになった。
- ・ リフレッシュコーナーを設けたことにより、研究者間の交流が促進された。
- ・ プロジェクト研究等の新たな研究に取り組むスペースが確保され、研究活動が活性化した。